

「教えから学び」へ

子どもの成長にとって一番大事なこと



家保研 汐見稔幸
@エデューカーレ
&ぐうたら村



今、教育や学校が、20世紀バージョンのものから 21世紀バージョンのものへ変わろうとしています

●何がかわろうとしているのでしょうか？

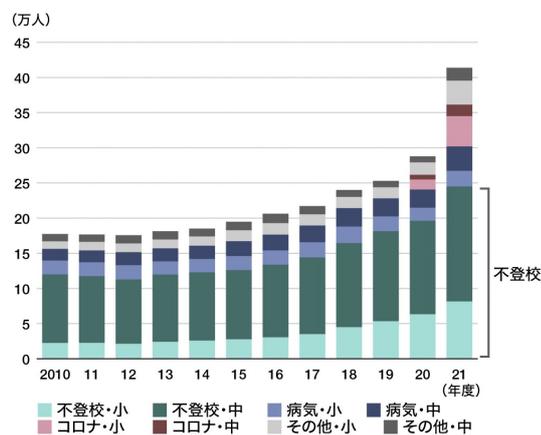
それはなぜ？そしてどう変わろうとしているのでしょうか？

●理由はいくつかあります。

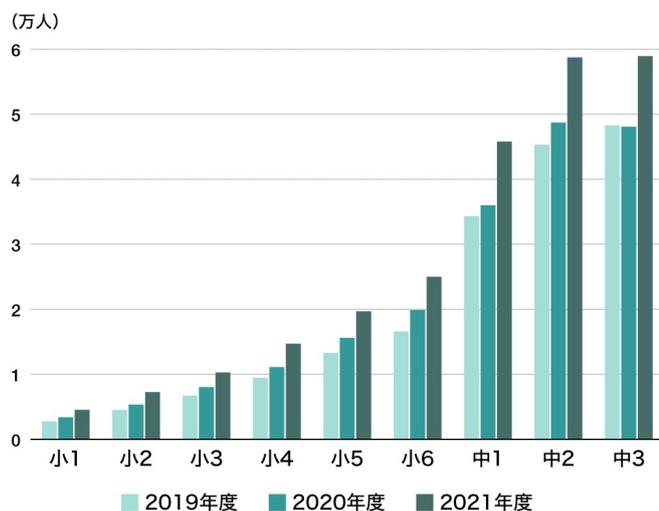
- ①不登校の子どもが激増⇨学校の魅力、必要性がダウン。
- ②企業等社会から、人材養成（学校教育）の内容への不満。
- ③非認知的能力育てが重要な課題に。
- ④答えが見つからない問題群が山積する社会になる。
- ⑤脳科学等、あらたな人間研究で学びのことが分かってきた。

不登校の子どもが激増！

小中学校における長期欠席の状況



学年別不登校児童生徒数



nippon.com

①不登校の子どもの増大の意味するもの

- きっかけは、先生が怖い、友だちからのいじめ、等多様で、アンケートでは個人原因と学校原因がほぼ半々ですが・・・
- いずれにしても、そうしたきっかけがあると、**もう学校に行きたくないという選択をする子どもが激増している**ということは、**学校の価値、大事さ、学校に行かねば・・・という感覚が子どもたちの中で次第に弱くなってきている、ということ**を表していると考えていいでしょう。**学校の価値の相対的低下**です。

●なぜでしょう？

しばらく前までは、学校に行かないと

- ①賢くなれない
- ②就職できない、資格が取れない
- ③友だちができない

等があって、学校が社会から必須の制度、場と認識されて
いました。

- しかし、学校で学んだことのうち、**知識やスキルに属する部分**
は、社会に出て役に立つというはあまりありません。社会
で必要な知識がどんどん変わり、かつ**必要な知識はネットで
手に入れることが誰にも可能**になってきたからです。

- 学校で身につく力のうち、**論理的思考力、段取り力 等**は社会に出た
ときに役に立ちますが、その育成をするのなら、**全く違った教育**でも可
能です。

- 例えば、**イギリス**にいる私の姪っ子の体験のような教育です。

- これは、**正解的な知識を教え、理解させ、記憶させる**というこれまでの
学校の知性の磨き方と**異なる知性**が社会から求められるようになって
きた、ということを示しています。

- 子どもたちは、**自分たちで調べ、意見を持ち、社会の役に立つこと**を願
うようになってきたのです。**lessonからstudy** へです。
学びのリアリティの現代的な獲得要求です。

② 社会からの学校への不満

●これには大きく二つあります。

①指示されたことは懸命にやるが、指示されていないことをどんどん自分で考えて提案する力が十分育っていない。

社会は、どんどんあたらしいニーズが拡大していて、それを的確に捉えて、解決のための知恵を出さなければならないのに。

クリティカルシンキングとクリエイティビティが弱い!

②社会で必要なのは認知的能力だけでなく、**非認知的能力**なのに、その非認知的能力が十分にそだっていない! 臨機応変力、試行錯誤力、感情コントロール力、コミュニケーション力、レジリエンス等々

非認知的能力（スキル）がどうして 育っていないといわれるのか

●子どもは、**人類の歴史を通じてずっと、地域社会の放牧**されて育ってきました。

●しばらく前まで、子どもたちは家の前の道路、広場、原っぱ、河原、境内、橋の下、あぜ道等で遊んでいました。そこにはこども用の遊具は皆無です。そこで**異年齢の集団で**楽しく遊んでいました。

●**そのために必要だったこと**は何でしょう？

→あるものを上手に使わないと遊べなかったのです。

それが、**子どもの日々の生活の中で身についたもの**でした。それは？

③日々の遊び(と家の仕事の手伝い)によって、子どもの心身に育ったもの

●例を挙げますと・・・

- ・しなやかな筋力、瞬発力、運動神経・・・
- ・工夫力、アイデア力、発想の豊かさ
- ・諦めない力、試行錯誤力、忍耐力・・・
- ・身体に文化を刻み込む力、文化を刻み込んだ身体
- ・相談力、協力力、コミュニケーション力
- ・落ち込まない力、立ち直り力(レジリエンス)、感情コントロール力

- これらのまとめて「**非認知的能力**」と言っていることはご存じと思います

しかし、生活が大きく変わってきたので、子どもたちに非認知的能力が育ちにくくなったのです

- そこに、大事なことが分かってきました!!!

- 社会でいい仕事をしている人、信頼されてリーダーシップを取っている人、リーダーシップを上手に取っている人等は**
 <学力=認知的能力>
 が高い人ではなく、..もちろん一定の学力は大事ですが、
<非認知的能力が高い人>
 だと分かってきたのです。

- うーん、ですね。

大きな矛盾が…

●そうですね、社会に出ると非認知的能力が最も大事になるのに、これまでのように、それが日常の遊びや仕事の手伝いによって育つ、ということが**どんどんなくなってきた**のですね。これは**矛盾**です。

●どうしますか？

●そこで多くの国は、教育を変え始めたのです。

非認知的能力もしっかり育てる教育へ！

すると…

●ということで、各国とも、**21世紀型の教育**に、大きく舵取りを始めました。いわゆる**トーク&チョーク型の授業**は、もうあまり行われていません。**生徒による探求が基本モデル**になっています。

●そうした非認知的能力育ては、実は乳幼児期から育つということがわかってきて、各国は教育の中で**最も保育幼児教育を重視する**＝**保育・幼児教育重視策**に変えてきました。

●小学校以降も、同じように非認知的能力育てを重視しながら**幼児教育とそれをうまくつなぐことが**課題となってきています。

非認知的能力の育ち方・育て方

- ①赤ちゃんのときから育つので、この時期からが実は大事。
あとからではたいへん！乳児保育での非認知的能力育ての研究が課題に！
- ②あれこれ指示してさせたり、教えたことをその通りさせたりしても非認知的能力はうまく育たないということです。
認知的能力育てとは原理が異なることです。
- 放牧の中でそだつのですから、自分であれこれに興味関心を持ち、自分あるいは自分たちであれこれ試行錯誤する中で、徐々に育っていくものです。

④答えが見つかっていない問題群が山積する社会に

- 環境問題、貧富の価格差拡大問題、LGBTQ問題、インクルーシブな教育、…どれも、こうすればみなうまくいくという「正解」などない、という問題です。
- 正解的な知識スキルをおぼえておくのではなく、その場その場で、最も適切な解を創造的に導き出すような力を育てる教育が必要になってきたわけです。
- それがクリティカルな思考力とクリエイティビティです。
幼児の場合、遊びと製作活動をレベル高くすることで育ちます。

⑤子どもの研究の進展で分かってきたこと

- たくさんありますが、とくに大事なのは**子どもは自育的な生き物**ということでしょう。
- つまり、人間は、あることを知りたい、できるようになりたい、等の**好奇心や欲求**が芽生えて、それを知るため、できるようになるため、**自ら挑んで、徐々にそれを知りできるようになっていく動物**だということです。
- 既成の知識やスキルと、得たい知識とスキルに適切な差**があるとき、その差を埋めるため自ら挑み、その差を埋めていくということです。

ということで

- 教育という営み、特に保育を含む**学校教育という営みのあり方を本格的に変えないといけない**時代が始まってきたのです。
- ではどうすれば????
- 新しいタイプの学校がどうした原理でやっているか見てみましょう。
- 例えば今日本で増えている**イエナプラン**の学校。

新しい模索をしている学校で共通しているのは？

- カリキュラムづくりつまり自分が学ぶべき内容のかなりを
子どもたちが相談して決めていることです。
- カリキュラムの原意は履歴です。そこからその人の経験
がその人のカリキュラムになります。それを発展させるこ
とがカリキュラムを考えることで、できるだけ自分で考え
ることが大事になります。
- もう一つ共通しているのは、絶えず議論しあっていることです。
そしてもう一つは、座学が少なく、経験学が多いことです。
経験を多様に重ねて学ぶわけです。

3つの特徴—これが教育改革の原理になるはずで

- ①カリキュラムの多くを自分で考える
- ②経験によって学ぶことが多い
- ③絶えず議論して意見交換している

- 経験によって学ぶことと、教えられ、覚えて学ぶことの違い。
「学ぶことによって覚える言葉、語彙を増やす」の意味の二つ

- ①語義meaning
- ②意味sense

「意味」は経験して、感情を深く動かし、価値付けをして、脳
の中にその価値付けを記憶していくという形での学びです。
「意味」は経験しないと学べません。

そのために、学校を学びのワークショップと 変えていくことがヒントでしょう

- 学校の授業を **lesson** と考えるのをやめて **study** と考えることが大事になります。生徒 **pupil** ではなく **student** です。
- つまり、授業を啓蒙的にこれは学ばねばというもの=つまり **大人が提案するもの** と、**生徒たちがこういうことを学びたいと決めるもの** に分けるのです。そこで **study的に取り組む** のです。
- 今文科省が提案している **個別最適な学び** と、**探求としての学び** これをカリキュラム化していくことが課題ということです。

保育園等では

- こうした **ワークショップの幼児版** をつくればいいのです。
- 部屋にいくつかコーナーがあって、たとえばここはラキューであれこれつくる専門の机、ここは絵の具であれこれ色を塗って遊ぶ専門のコーナー、ここは粘土遊び専門のコーナー、ここはカプラ専門の空間、ここは楽器づくり用のコーナー、などをつくり、その活動、制作に必要なものをたくさん置いておくわけです。
- その活動は **できれば異年齢のグループで行う** といいですね。同年齢だと競い合いのようになりがちですし、異年齢だと教え-学ぶ関係ができて、そこで育つものが大きくなります。

以上にしましょう

ご静聴
ありがとう
ございました

がんばって下さい